

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
大野市（福井県）

全体総括

○計画期間：平成25年4月から平成30年3月まで（5年間）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

第2期計画では、歴史ある当市の中心市街地の特性を踏まえ、第1期計画に引き続き「原点への回帰～人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して～」というコンセプトの元、中心市街地の活性化に取り組んだ。まちなかの利便性と魅力を向上させるためのハード事業やまちなかの回遊性と価値を向上させるためのソフト事業に取り組み、交流人口や歩行者通行量の増加が見られ、これまで公共事業中心であった中心市街地への投資において、民間投資が徐々に目立つようになり、まちの賑わいが創出され始めている。特に、民間投資ではこれまでになかった規模の商業施設の整備が複数あり、地域住民や観光客の中心市街地での長時間滞留や回遊性の向上によるさらなる活性化が期待されている。

また、2期10年間の取組を通じて、商店街の店舗や民家でも城下町の景観を意識した建造物が整備されるなど、市民の意識にも変化が見られるようになり、美しいまちなみが観光客を喜ばせている。

このような取組により、中心市街地主要4施設への年間入込み客数は増加した一方で、歩行者通行量及び公共交通利用者数は目標に至らなかった。また、市全体及び中心市街地の人口減少や高齢化、事業者の後継者不足は引き続き進行している。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】

（中心市街地区域内）	平成24年度（計画期間開始前年度）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（計画最終年度）
人口	2,525人	2,476人	2,422人	2,402人	2,404人	2,349人
人口増減数		-49人	-54人	-20人	2人	-55人
社会増減数		-49人	0人	-8人	-28人	7人
転入者数		33人	59人	62人	36人	67人

※人口は4月1日現在、その他のデータは年度の合計（住民基本台帳）

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2.における選択肢の理由）

第2期計画に位置付けた88事業は、平成30年3月の計画期間終了時において、86事業が完了又は実施中で、2事業が未実施であった。

第2期計画における本市の取組として、「市役所新庁舎」や「城下町南広場」を整備したほか、「歴史的建造物（武家屋敷旧田村家）」や「古民家ギャラリー（COCONOアートプレイス）」の整備など公共

投資によるハード事業によって、市民や観光客にとって中心市街地に訪れやすい環境が整い、交流人口が増加し、中心市街地の活性化に寄与したと考えられる。

また、平成25年1月に設立されたまちづくり会社「(株)結のまち越前おおの」による取組として、市民総参加により開催した「結の故郷発祥祭(市制60周年事業)」や、商店主と連携した「越前おおのまち講座」などソフト事業が展開されたことにより、中心市街地への観光入込み客数は、平成24年の約50万人から平成29年には約90万人にまで増加した。このほか、歩行者通行量についても、悪天候であった平成29年の数値を除けば、第2期計画策定時の約5,000人(市内7箇所・2日間)から約1,500人～4,000人増加した。

こういった動きを受け、これまで停滞していた民間投資が喚起され、「旧Fマート(popolo. 5)」や「旧水本高等女学園(サルトリア ダ 水本)」などの大規模な施設整備事業が実施されるとともに、中心市街地において16店舗が新規出店・店舗改装するなど、着実に効果が表れている。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

平成29年度は、第2期大野市中心市街地活性化基本計画の最終年として、観光客及び市民が中心市街地へ足を運ぶ機会の増加につながる取組が積極的に行われた。

取組の結果、中心市街地への賑わいや交流人口の増加が数字としてもみえ、商業施設や駐車場の増設、電柱の地中化による景観対策などのインフラ整備が進み、来街者を受け入れる体制は整ってきたと考えられる。越前おおの中心市街地活性化協議会としては、第2期中心市街地活計化計画事業は概ね順調に進捗したといえ、かなり活性化が図られたと考えられる。

2期10年にわたる中心市街地活性化基本計画は終了したが、今後とも中心市街地の活性化に向けた事業を継続する必要があると考えている。宿泊施設の充実を図るほか、観光客の滞在時間を延長させる仕組みづくりや株式会社結のまち越前おおのが実施する「越前おおの まち講座」の体験型観光への活用、中心市街地を回遊させる企画を行うなど、外貨を獲得するための仕組み作りを行っている。また、大野商工会議所としても、さらなる活性化に向けた継続的支援を行っていくことで、増加している交流人口を官民が連携して受け入れていく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

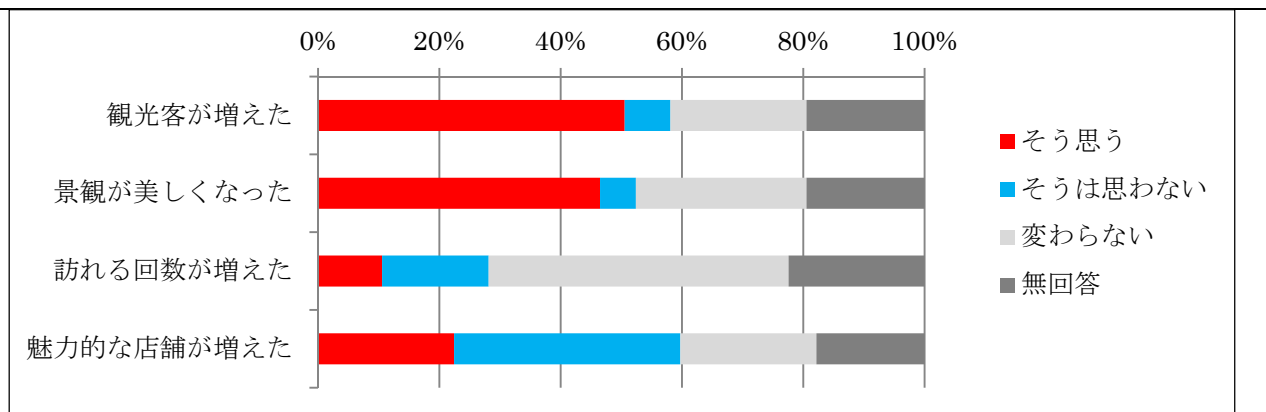
「大野のまちづくり」に関するアンケート

調査日:平成30年4月26日～5月10日

調査方法:20才以上の市民1,000人を無作為抽出しアンケートを郵送

有効サンプル数:370人

中心市街地について、10年前と比べてどのような印象であるかを調査した結果、半数近い市民が「観光客が増えた」「まちの景観が美しくなった」と回答した一方で、「訪れる回数」「魅力的な店舗」については、「減った」と回答した市民が「増えた」と回答した市民を上回った。



6. 今後の取組

本市の中心市街地活性化基本計画については期間が満了したが、引き続き最上位計画である第五次大野市総合計画に定める将来像「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」の実現に向けて、様々な施策を推進していく。その中で、基本施策に位置付けている中心市街地の活性化について、中心市街地主要4施設への年間入込み客数や歩行者通行量のフォローアップを施策評価の中で行っていく。また、大野市立地適正化計画に設定した都市機能誘導区域については、これまでの中心市街地地域を包含しており、当該計画においても、空き店舗への新規出店の支援や商店街への支援、充実した公共交通の実現などを誘導施策と位置付け、持続可能なコンパクトシティの実現を目指していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
まちなか観光による交流人口の増加	関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)	136,093 人	144,000 人	200,754 人	H29	A
商店街を中心としたまちなか生活の充実	1日当たりの歩行者通行量(休日)春・秋の合計値	4,907 人	6,000 人	3,979 人	H29.5月・10月	C
豊かな暮らしを支える公共交通の実現	まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間)	28,685 人	30,500 人	24,314 人	H29	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

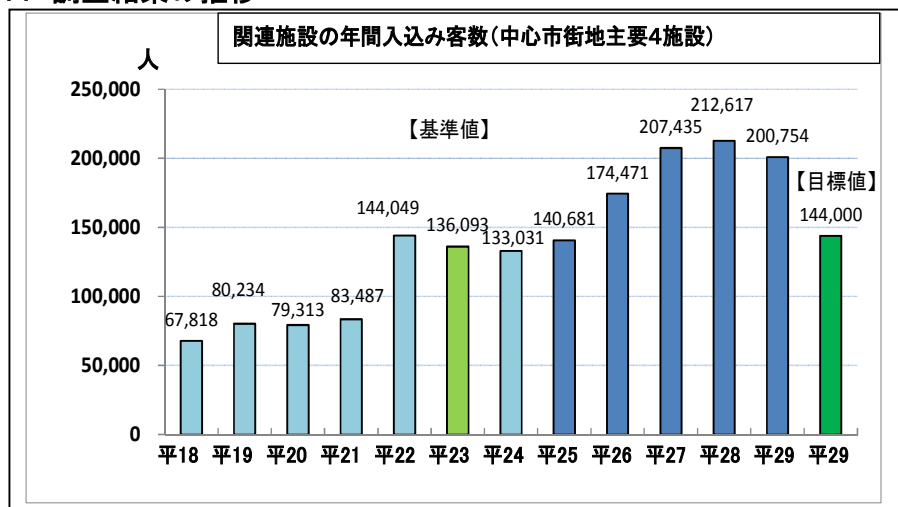
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標「まちなか観光による交流人口の増加」

「関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)」※目標設定の考え方基本計画 P65~P67 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H23	136,093 人 (基準年値)
H25	140,681 人
H26	174,471 人
H27	207,435 人
H28	212,617 人
H29	200,754 人
H29	144,000 人 (目標値)

※調査方法：関連4施設の年間入込み客数
 ※調査月：1月から12月実施、翌年1月取りまとめ
 ※調査主体：大野市
 ※調査対象：平成大野屋、越前大野城、民俗資料館、武家屋敷旧内山家

2. 目標達成の状況

目標指標である「まちなか観光による交流人口の増加(関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設))」に向けた各事業については、1事業が実施中、1事業が完了した。

主要事業のひとつである武家屋敷旧田村家の開館に合わせた散策ルートの設定、施設入館パスポートの発行など有機的に回遊する仕組みを構築したこともあり、入込み客数は順調に推移した。また、天空の城として注目された「越前大野城」の入館者数も概ね順調に増加するなど「天空の城」効果が引き続き現れているほか、「結の故郷おもてなし事業」の実施により、まちなか遠足52件4,126人、まちなか散策誘致290件10,738人が訪れるなど効果が出ており、目標を達成した。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 結の故郷おもてなし事業(大野市)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成25年度～【実施中】
事業概要	まちなかと郊外の観光資源を結びつける観光ルートの開発、宿泊を伴う観光客を誘致する事業である。
目標値・最新値	【目標値】11,950人 【最新値】15,647人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	隣接市にある福井県立恐竜博物館に株式会社結のまち越前おおのが発行する「食べ歩き見て歩きマップ」を設置し、誘客を促進したほか、まちなか遠足やまちなか散策誘致を進めたことに一定の効果があつたため。
計画終了後の状況(事業効果)	まちなか遠足やまちなか散策によって一定の観光入込み客数があり、関連施設の年間入込み客数の増加に寄与している。
結の故郷おもてなし事業の今後について	平成30年度は、本事業において、観光アプリ「結なび」の機能強化事業や、おおのならではの観光体験メニュー開発補助事業などの新規事

業を実施している。今後も効果を検証し、改善しながら継続して事業を実施していく。

②. 歴史的建造物保存整備事業(田村又左衛門家屋敷保存事業)(大野市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(越前おおの城下町地区)) 平成25年度～26年度
事業開始・完了時期	平成25年度～26年度【済】
事業概要	大野藩家老の「田村又左衛門家屋敷」の復元解体に係る調査及び保存整備、庭園・通路などを整備する事業である。
目標値・最新値	【目標値】42,300人 【最新値】75,617人
達成状況	達成した。
達成した(出来なかった)理由	平成27年4月25日、武家屋敷旧田村家としてオープンし、大野藩上級武家屋敷の様相を留めている貴重な史跡として、まちなか散策のルートに組み込み、ほかの施設との回遊性が高まったため。
計画終了後の状況(事業効果)	事業完了後以降毎年5,000人程度の入込み客数があり、貴重な歴史的建造物のひとつとして、まちなか散策の魅力を高めている。
歴史的建造物保存整備事業の今後について	実施済み

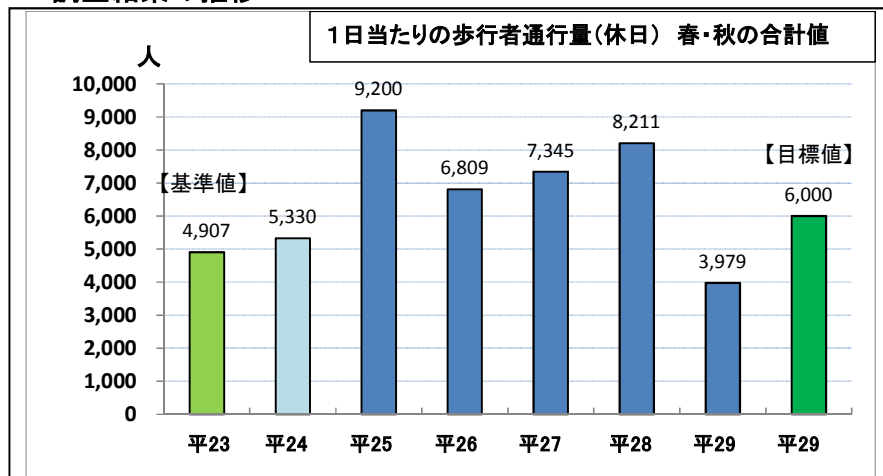
4. 今後について

主要事業のひとつである「結の故郷おもてなし事業」を継続して実施していく。さらに、「越前大野城」や「田村又左衛門家屋敷」などの文化施設を教育委員会部局から市長部局の産経建設部商工観光振興課で所管し、当市の観光誘客に積極的に活用していくことで、更なる観光入込み客数の増加に向け取り組んでいく。

個別目標「商店街を中心としたまちなか生活の充実」

「1日当たりの歩行者通行量(休日) 春・秋の合計値」※目標設定の考え方基本計画 P68～P70 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H23	4,907 人 (基準年値)
H25	9,200 人
H26	6,809 人
H27	7,345 人
H28	8,211 人
H29	3,979 人
H29	6,000 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地7地点、12時間連続調査

※調査月：春(5月)及び秋(10月)

※調査主体：越前おおの中心市街地活性化協議会

※調査対象：平成大野屋前、ねんりんの里前、七間本陣付近、観光協会付近、旧Fマート前、越前大野駅前、野村醤油店前の休日朝7時から夜7時までの歩行者通行量

2. 目標達成の状況

目標指標である「商店街を中心としたまちなか生活の充実(1日当たりの歩行者通行量(休日)春・秋の合計値)」に向けた各事業については、1事業が完了、1事業が未実施である。

第2期計画の初年度である平成25年度から毎年目標値を超えていたものの、平成29年度については悪天候(台風)により初めて目標値を下回った。しかしながら、「まちなか観光による交流人口の増加」指標の結果からも、年間を通じた中心市街地への観光入込み客数は大きく減少しておらず、歩行者通行量についても調査日が極端な悪天候でなければ、目標数値は達成できたものと推測される。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業(仮称)(株式会社結のまち越前おおの)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成25年度～【未】
事業概要	遊休不動産を活用したコミュニティカフェ等の整備を行う事業である。
目標値・最新値	【目標値】200人
達成状況	達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	事業未実施のため。
計画終了後の状況(事業効果)	事業未実施
中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業の今後について	当該事業予定地周辺で出店が相次ぎ、今年度も複数の出店計画があるなど当初より周辺環境が変化していることから、遊休不動産の利活用の方策を改めて検討する。

②. 歴史の道再生事業(大野市)

支援措置名及び 支援期間	新にぎわい商業ゾーン形成事業補助(県補助) 平成25年度～26年度
事業開始・完了 時期	平成25年度～26年度【済】
事業概要	本町、七間、五番、横町、春日の各通りに提灯を設置して街区の景観形成を図るとともに、高校生によるチャレンジショップ設置を行うなど商店街を中心にまちなか全体に活気と賑わいを創出する事業である。
目標値・最新値	【目標値】254人 【最新値】105人
達成状況	達成できなかった。
達成した(出来 なかった)理由	平成25年度、26年度の2か年で60基の提灯が設置され、景観形成に寄与したものの、平成29年度の実績値は悪天候が原因で歩行者通行量が減少したため(平成28年度の実績値では目標を達成している。)
計画終了後の状 況(事業効果)	平成28年度には、美濃街道沿いの醤油蔵に着目した回遊性を高める事業を実施するなどストーリー性ある取組がなされている。
歴史の道再生事 業の今後につい て	事業は終了となるが、民間事業者による取組は継続していく。

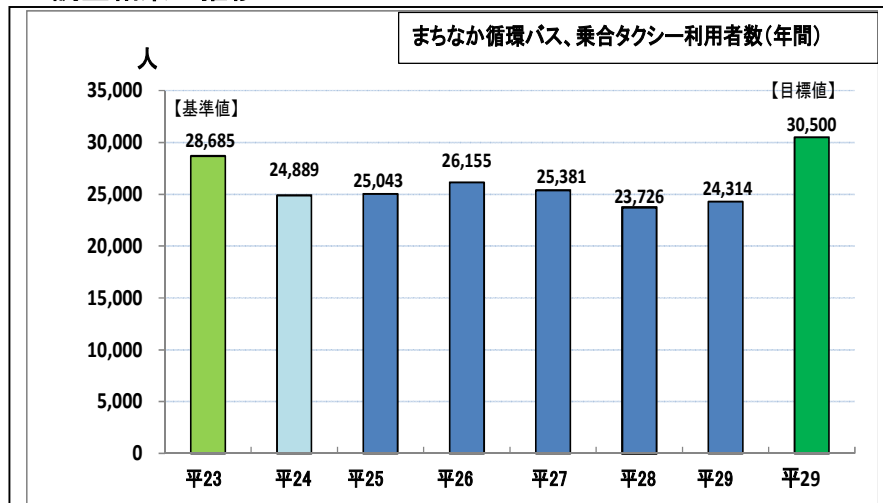
4. 今後について

平成30年度は、「株式会社結のまち越前おおの」が中心市街地の道路や商店街の空間を活用した「中心市街地オープンカフェ事業」を実施するなど、第2期計画の期間満了後においても、引き続き中心市街地に賑わいをもたらし、回遊性を向上させる事業を実施していく。今後も、大野商工会議所において歩行者通行量は継続して調査を行いながら、増加傾向にある空き地や空き家、空き店舗など課題を解消するための効果的な事業を推進していくこととしている。

個別目標「豊かな暮らしを支える公共交通の実現」

「まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間)」※目標設定の考え方基本計画 P70～P72 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H23	28,685 人 (基準年値)
H25	25,043 人
H26	26,155 人
H27	25,381 人
H28	23,726 人
H29	24,314 人
H29	30,500 人 (目標値)

- ※調査方法：まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数
- ※調査月：通年(4月～3月)
- ※調査主体：大野市、運行事業者
- ※調査対象：利用者

2. 目標達成の状況

目標指標である「豊かな暮らしを支える公共交通の実現(まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間))」に向けた各事業については、2事業が完了、1事業が一部未実施であった。

まちなか循環バスは本格運行を開始した平成24年度以降、1便当たりの乗客数は試験運行時と比較して増加し、市民の足として定着しつつあるが、目標値については達成できず、計画期間中は基準値を上回ることもなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 市民ホール整備事業(大野市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(越前おおの城下町地区)) 平成25年度～26年度
事業開始・完了時期	平成24年度～26年度【済】
事業概要	市役所新庁舎の新築に際し、庁舎1階に市民ホールを設けてギャラリー等として活用する事業である。
目標値・最新値	【目標値】264人 【最新値】733人
達成状況	達成した。
達成した(出来なかった)理由	市民ホールを市民展示やイベント会場として利用したほか情報コーナーを設けたことで、多くの市民に活用され、公共交通利用者の増加に繋がったため。
計画終了後の状況(事業効果)	公共交通を活用した地域住民の交流、観光客を含む来庁者の回遊性が高まった。事業終了後も多くのイベント・展示が開催され、多くの市民に活用されており、公共交通利用者も年々増加している。

市民ホール整備事業の今後について	実施済み
------------------	------

②. バス停留所整備及び(仮称)城下町南広場整備事業(大野市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(越前おおの城下町地区))、社会資本整備総合交付金(道路事業)及び防災・安全交付金(道路事業と一体の効果促進事業) 平成29年度、平成25年度～27年度
事業開始・完了時期	平成29年度【未】、平成25年度～27年度【済】
事業概要	六間通り(国道476号)の歩道拡幅に伴いバス停留所を設置するとともに、市役所現庁舎跡地に防災機能を備えた多目的広場を整備する事業である。
目標値・最新値	【目標値】573人 【最新値】測定不可
達成状況	達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	一部事業未実施のため。
計画終了後の状況(事業効果)	バス停留所整備事業については、歩行者の安全性の観点等から設置すべきでないという地元住民の意向を尊重し未実施であったが、市役所庁舎の隣接地に整備した「城下町南広場」においては、各種イベントが開催されるなど市役所周辺における公共交通利用者の増加に寄与した。
バス停留所整備及び(仮称)城下町南広場整備事業	バス停留所整備事業については、未実施のまま終了とする。城下町南広場整備事業については実施済み。

③. 高齢者ゆうゆう購買促進事業(大野商工会議所、商店街振興組合連合会、大野市)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成25年度～27年度【済】
事業概要	協賛店で買い物又はまちなか循環バス等を利用した際に特典を付与することで消費の拡大を図る事業である。
目標値・最新値	【目標値】975人 【最新値】測定不可
達成状況	達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	最新値については測定不可であったが、まちなか循環バス及び乗合タクシー利用者数が基準値及び目標値を下回っており、達成できなかったと判断したため。
計画終了後の状況(事業効果)	まちなかにおける高齢者の購買促進を図ることで地域経済の活性化を図り、平成27年度には特典を付与する対象を市外からの来街者に拡大した上で実施。買い物での特典のほか、まちなか循環バス等の利用を促進したが、利用者の増加には至らなかった。
高齢者ゆうゆう購買促進事業	終了とする。

4. 今後について

「株式会社結のまち越前おおの」が各商店と連携して実施する「越前おおのまち講座」事業や、「文化施設入館・まちなか循環バス利用パスポート」の発行については継続し、引き続き中心市街地を訪れる動機付けを行うことでまちなか循環バスや乗合タクシーの市民利用を増やしつつ、観光客の利用促進を図っていく。

第2期計画の期間終了後においても公共交通については、第五次大野市総合計画に「公共交通手段の確保」として基本施策に位置付けられているほか、今後、持続的な公共交通ネットワークの形成を目的とした大野市地域交通網形成計画を策定する予定であり、本市のまちづくりにおいて重要な施策のひとつとして、公共交通関連施策を推進していく。